

新約聖書の奥義 第28回～第30回 教会時代と大患難期に関する9つの奥義

□アウトライン

1. 奥義の意味
2. 奥義の啓示
3. 奥義の数
4. 第一の奥義「奥義としての神の国」
5. 奥義としての神の国の時代には、教会時代と大患難期が含まれる
6. 第一の奥義と他の9つの奥義との関係
7. 教会時代に関する5つの奥義
8. 大患難期に関する4つの奥義
9. 奥義と私たち信者との関係

資料 表1 「この後に起ころうとしていること」(黙1:19)の一覧 黙4章から20章

表2 ハルマゲドンの戦い 8つの段階で展開

1. 奥義の意味

- (1) 「奥義」と訳されているギリシア語の「ムステリオン」は、一般的には、
目を閉じること → 瞑想すること → 秘められたことを知らされ、そのことについて思いを巡らすこと、などを意味する。
- (2) しかし、新約聖書の中では、特定の意味をもつ神学的用語として使われていて、その意味はシンプル。「旧約聖書では全く啓示されていなかったが、新約聖書において明らかにされたこと」という意味である。
- (3) 奥義の意味を示す聖書箇所・・・マタイ13:35、ロマ16:25～26、Iコリ2:7、エペソ3:4～5、9、コロサイ1:26

2. 奥義の啓示

- (1) 奥義は、「使徒たちと(新約時代の)預言者たちに」与えられた(エペソ3:5)。
- (2) それゆえ、彼らは新約時代の教会の土台となり(エペソ2:19～22)、新約聖書を書き記すことになった(エペソ3:3、4、9)。
- (3) 特に使徒パウロは、「神の奥義の管理者」(Iコリ4:1)という特別な役割を神から受けた。

3. 奥義の数： 神の8つの奥義、サタンの2つの奥義、合わせて10

4. 第一の奥義「奥義としての神の国」

- (1) 奥義の第一は、「奥義としての神の国」である。メシアご自身によって語られた。メシアの初臨と再臨の間に、「奥義としての神の国」の時代が入る。
- (2) メシアは2回来る、これは奥義ではない
 - ① メシアの来臨1回目（初臨）

メシアはイスラエルの王としておいでになられた。「悔い改めよ、神の国は近づいた」と人々に宣べ伝えて、イスラエルの人々に「メシアの王国としての神の国」を提供しようとした。しかし、イスラエルの指導者たちはメシアを拒否した。その結果、メシアはいったん、天に帰り、時期を待つことになった（ホセア5:15）。
 - ② メシアの来臨2回目（再臨）

イスラエルが民族的に悔い改めて、メシアを求めると、メシアは地上に再び戻る（表2 ハルマゲドンの戦い 第5段階と第6段階）。

そして、「メシアの王国」が建てられ、メシアが世界を支配する。
- (3) メシアが2回来ること、そしてメシアの王国が地上に建てられることは、旧約聖書の預言でも知られていた。新約聖書で初めて明らかにされたことは、【メシアの初臨と再臨の間に、「奥義としての神の国」の時代が入る】ということである。マタイ13章、マルコ4章、ルカ8章に記される9つのたとえ話は、この時代の特徴を教えるものである。（第25回～第27回の学びを参照ください）

5. 奥義としての神の国の時代には、教会時代と大患難期が含まれる

- (1) 「奥義としての神の国」の始まり・・・【イスラエルによるメシア拒否】の日から始まった。したがって、イエスがまだ十字架にかかる前、イスラエルの指導者たちがイエスをメシアではないと拒否したときから、始まったのである。
- (2) この時代の中に、教会時代と大患難期が含まれる。
 - ① 教会時代の始まりと終わり・・・紀元30年、メシアの十字架上の死、それから3日目に復活、復活から40日目に昇天、そして昇天から10日後、復活からは50日目に、聖霊降臨が起きた（使徒2章）。

この聖霊降臨の日から教会時代が始まった。今、私たちは教会時代の中にいる。やがて、教会に属するべき異邦人信者の数が満ちると、教会が完成し、教会の信者たちは、天に引き上げられる。これが教会の携挙である。携挙をもって、教会時代は終わる。

② 大患難期の始まりと終わり・・・教会の携挙の後、地上は **7年間の大患難期** となる。大患難期について、旧約と新約聖書の中で預言されていることをまとめると、次のようになる。

- **大患難期は、七年条約で始まり**、ハルマゲドンの戦いとメシアの再臨で終わる。
- 始まりは七年条約。国家としてのイスラエルと、ある小国の君主との間で、7年間の有効期間を持つ同盟条約が締結される。これが大患難期の始まりである。
- その君主は、3年半経過した時点でその条約を破棄して、イスラエルに敵対するようになる。その君主は、エルサレムの神殿で自らを神と宣言し、バビロンに首都を置いて世界を支配する。その人物が、「反キリスト」である。
- このとき、イスラエルの多くの人々が、ボツラに避難する。
- 反キリストによる世界支配は、それから3年半続く。その末期は、ハルマゲドンの戦いと呼ばれる戦争である。
- ハルマゲドンは戦場ではなく、反キリスト軍の集合地点。反キリスト軍は、まずエルサレムを陥落させ、次にボツラに向かう。
- 反キリスト軍がボツラに近づき、いよいよ民族存亡の危機に瀕する中、ついにイスラエルの人々は、民族的に悔い改めてイエスをメシアであると認め、天に向かってメシアの帰還を祈り求める。
- その祈りを受けて、メシアが天からボツラに降り立ち、反キリスト軍をエルサレム近郊まで押し返して打ち破る。これが、メシアの再臨である。
- **メシアが再臨しハルマゲドンの戦いが終結して、大患難期は終了する。**

(3) 奥義としての神の国の終わり・・・大患難期が終了してからメシアの王国が建国されるまでに、**75日間の準備期間**がある（ダニエル12:11～12）。

その間に、いくつかの出来事があるが、その一つが、諸国民の裁きである。

大患難期を生き延びた諸国民が、メシアの前に集められ、信者と不信者とに分けられて、信者はメシアの王国への入国が認められる。

九つのたとえ話の三番目の「毒麦のたとえ話」の収穫（マタイ13:30）、八番目の「地引網のたとえ話」（マタイ13:47～50）は、この裁きを指す。

諸国民のさばきをもって、「奥義としての神の国」は終わる。

これをもって「今の世」は終わり、「次の世」（マタイ12:32）、すなわち「メシアの王国としての神の国」の時代に移る。

6. 第一の奥義と他の9つの奥義との関係

- (1) 第一の奥義は、「奥義としての神の国」である。その時代の中には、教会時代と大患難期が含まれる。
- (2) 他の9つの奥義のうち、5つは教会時代に、4つは大患難期に関する奥義である。
- (3) 教会時代に関するものは、教会に関する5つの奥義である。
- (4) 大患難期に関する奥義は、次の4つである。
 - ① イスラエルの民族的救いの時期に関する奥義
 - ② サタンの二つの奥義の第一 バビロンの奥義
 - ③ サタンの二つの奥義の第二 不法と不法の人(=反キリスト)についての奥義
 - ④ サタンの二つの奥義を打ち破る神の八番目の奥義

7. 教会時代に関する奥義=教会に関する5つの奥義

- (1) 七つの星と七つの金の燭台(黙示録1:20)・・・七つの金の燭台は、地上の地域教会を象徴し、星はそれぞれの教会を守る守護天使を象徴する。→ 地上の地域教会には、それぞれに守護天使が付いている。
- (2) キリストのからだとしての教会(エペソ3:5~6)・・・教会はキリストのからだであり、ユダヤ人信者と異邦人信者とから成る(エペソ2:11~19)。異邦人が救いを受けることは旧約聖書でも知られていたが、ユダヤ人信者とともに一つのからだ、教会に結び合わされることは、新約聖書で初めて明らかにされた。
- (3) 【教会の信者】の中にメシアが住んでくださること(コロサイ1:27)・・・聖霊が信者の中に入ってくださいことは旧約聖書でも知られていたが、メシアが【教会の信者】の中に内住することは、新約聖書で初めて明らかにされた。
- (4) メシアの花嫁としての教会(エペソ5:22~33、Ⅱコリント11:2、黙示録19:6~8)・・・旧約聖書ではイスラエル民族はヤハウエの妻と表現されていた(ホセア2:2)。新約聖書では、教会はメシアの花嫁であると明らかにされた。
- (5) 携挙のときに信者のからだは「変えられる」こと(Ⅰコリント15:50~58)・・・からだが変わることについては、旧約聖書でも義人の復活が預言され(ダニエル12:2)、またエノク(創5:24、ユダ14)、とエリヤ(Ⅱ列2:11、マラキ4:5)の実例を通して、死を経ずにからだが変わることもあることが示されていた。教会の信者が全員、死んでいた者も生きている者も、同時に、一瞬にして、からだが変わられ、栄光のからだ、不死のからだを受けることは、新約聖書で初めて明らかにされた。

8. 大患難期に関する奥義

- (1) イスラエルの民族的救いは教会が完成して携挙された後であること（ロマ 11：25～32）・・・教会の完成は、教会に属すべき異邦人信者の数が満ちるときである。
- (2) サタンの2つの奥義
 - ① バビロンの奥義（黙示録 17 章）・・・大患難期の前半期、バビロンには世界統一宗教の本部が置かれ、イエスを救い主と信じる信者たちを迫害する。そして後半期には、バビロンは反キリストの世界支配の首都となる。
 - ② 不法と不法の人の奥義（Ⅱテサロニケ 2：1～12）・・・不法の人である反キリストは、合法的にではなく、不法にその権力の座に着く。反キリストが不法に登場することを引き止めているものとは、神によって人間社会に与えられた統治者の権威、法の支配による統治体制である。それが大患難期の中間で取り除かれると、反キリストによる世界支配の時期に入る。
- (3) サタンの奥義を打ち破る「神の奥義」（黙示録 10：7）・・・大患難期後半期における反キリストの首都であるバビロン、そしてそのバビロンの王座の上に座る反キリスト、その両者を打ち砕く。黙示録 11：14 では「第三のわざわい」、15：1 では「最後の七つの災害」とも呼ばれる。
具体的には、黙示録 16：1～21 までの、**七つの鉢の裁き**を指す。

9. 奥義と私たち信者との関係

- (1) 福音の奥義（エペソ 6：19～20）・・・福音を宣べ伝えることは、奥義そのものを知らせ教えることである。奥義はベテランの信者だけにではなく、すべての信者に教え広められるべきものである。
- (2) 信仰の奥義（Ⅰテモテ 3：9）・・・奥義は、信仰の内容である。今の時代において私たち教会の信者が信じるべき信仰の内容は、**福音の三要素**と**奥義**である。福音の三要素を信じて救いを受け取り、奥義を信じて、霊的に成長する。
- (3) 敬虔の奥義（Ⅰテモテ 3：16）・・・真の敬虔は、奥義によって生み出される。

表1 「この後に起ころうとしていること」(黙1:19)の一覧
黙4章～20章

大患難期前		① 神の御座 ② 小羊と1本の巻き物(封印7か所)	4章 5章
大患難期	前半期 3年半	① 七つの封印のさばき ② 14万4千人のユダヤ人と世界的リバイバル ③ 七つのラッパのさばき(第5のラッパは「第一の災い」、第6のラッパは「第二の災い」)	6章 7章 8章～9章
	中間で 起きる事	① 小さな巻物 ② 大患難期の神殿 ③ 二人の証人(前半期に活動、死と復活) ④ 第七のラッパ ⑤ 後半期におけるイスラエル民族の避難 ⑥ 海から上ってくる獣(反キリスト) ⑦ 地から上ってくる獣(偽預言者) ⑧ 七つの宣言	10章 11:1～2 11:3～13 11:14～19 12章 13:1～10 13:11～18 14章
	後半期 3年半	① 鉢のさばきの前奏 ② 七つの鉢のさばき = 「最後の七つの災害」 (15:1) = 「第三の災い」(11:14) ● 第6の鉢: ハルマゲドンの戦い 第1段階 ● 第7の鉢: ハルマゲドンの戦い 第8段階	15章 16章 (16:12～16) (16:17～21)
特記事項	バビロンの 二つの役割	① 世界統一宗教の本部所在地(前半期) ② 反キリストによる世界支配の首都(後半期)	17章 18章
	再臨 第6・7段階	① 再臨の前奏 ② 再臨後に反キリスト軍と戦うメシア	19:1～10 19:11～19
準備期間 75日間		① 反キリストと偽預言者の逮捕と処罰 ② サタンの束縛 ③ 大患難期における殉教者たちの復活	19:20～21 20:1～3 20:4～5
メシアの王国		① メシアによる統治【千年間】	20:6
王国の後		① 最後の反乱とその結末(②による) ② 大きな白い御座のさばき(最後の審判)	20:7～10 20:11～15
永遠の秩序		① 古い天地は過ぎ去り、新しい天地 ② 新しいエルサレム	21:1～8 21:9～22:5

ハルマゲドンの戦いについて

ハルマゲドンの戦いは、8つの段階をもって展開される。

黙示録は、その最初の第1段階と最終の第8段階を、16章12～21節で記す。

8つの段階は、旧約聖書により預言されている。その内容は、それぞれの預言が部分的であり、かつ時系列ではない。そこで、内容を整理して論理的な順序をつけると8段階になる。黙示録は最初と最後を明らかにしているので、論理的順序をつける上で大変役にたつ。その8段階を表にまとめると、次のようになる。

表2 ハルマゲドンの戦い 8つの段階で展開
旧約・新約預言を時系列で整理する

段階	ハルマゲドンの戦いの展開	関連箇所
第1	反キリストの軍勢、ハルマゲドン（メギドの丘）があるイズレエル平野に集結 この集結を、神の目から見ると	黙 16 : 12～16 ヨエ 3 : 9～11、詩 2 : 1～6
第2	反キリストの首都バビロンが攻撃される バビロンは世界経済の中心地となっていた 攻撃するのは、異邦人信者たち	イザ 13 : 1～14 : 23 エレ 50～51章 ゼカ 5 : 5～11 イザ 13 : 3
第3	反キリストは、バビロンを見捨て、当初の作戦どおり、エルサレムに進軍する。 イスラエル軍は激しく抵抗する。 激戦の末、エルサレムは陥落する。しかし、エルサレムにユダヤ人が残る	ゼカ 12 : 1～3 ゼカ 12 : 4～9 ミカ 4 : 11～5 : 1 ゼカ 14 : 1～2
第4	反キリストは、多くのユダヤ人が避難しているヨルダン川東側の山岳地帯の町ボツラに進軍する ユダヤ人たちは荒野で3年半、養われる その場所はボツラ 大患難期後半期のユダヤ人迫害と戦役により、ユダヤ人の全人口は3分の1に減少 反キリストの軍勢がボツラに迫り、ユダヤ人は危機	エレ 49 : 13～14 黙 12 : 6、14 イザ 41 : 8～20 ミカ 2 : 12 ゼカ 13 : 8～9a マタ 24 : 28

第5	<p>ボツラにいた指導者たちの呼びかけで、イスラエル民族全体がイエスをメシアとして認め、メシアを拒否してきた民族的な罪を悔い改める。そして、メシアに帰って来てくださいと祈る。</p> <p>呼びかけから2日間。</p> <p>3日目に、イスラエル民族全員が霊的救いを受ける。偽預言者たちが処刑される。</p>	<p>ホセ 6 : 1～3</p> <p>イザ 53 : 1～9</p> <p>イザ 64 : 1～12、詩 79・80</p> <p>ゼカ 12 : 10～13 : 1</p> <p>ヨエ 2 : 28～32</p> <p>ゼカ 13 : 2～6</p>
第6	<p>メシアがボツラに地上再臨する。</p> <p>メシアはひとりで反キリストの軍勢とボツラで戦う。</p> <p>再臨するときのシャカイナ・グローリーケルブに乗る</p> <p>万軍（天使たち）を伴う・教会の聖徒たちを伴う</p> <p>反キリスト軍との戦いでメシアの衣は血に染まる</p> <p>イスラエル民族は神の民とされたことを知る</p>	<p>イザ 34 : 1～7、63 : 1</p> <p>イザ 63 : 2～6、ハバ 3 : 3</p> <p>ミカ 2 : 12～13</p> <p>マタ 24 : 30、使 1 : 9～11</p> <p>詩 8 : 8～16</p> <p>マタ 16 : 27、ユダ 14～15</p> <p>黙 19 : 17～19、13</p> <p>エゼ 39 : 17～29</p>
第7	<p>ボツラからエルサレムの郊外、ヨシャパテの谷までの戦い。</p> <p>反キリストはメシアによって殺される。</p> <p>その霊魂はハデスに、死体は葬られずに放置される。</p> <p>エルサレム近郊で反キリストの軍勢は壊滅する。</p>	<p>ヨエ 3 : 12～13</p> <p>ハバ 3 : 13b、Ⅱテサ 2 : 8</p> <p>イザ 14 : 3～11、16～21</p> <p>ゼカ 14 : 12～15、黙 14 : 19～20、エレ 49 : 20～22</p>
第8	<p>メシアがオリーブ山の上に栄光の王として立つ。</p> <p>大地震が起きて、地形が大きく変わる。</p>	<p>ゼカ 14 : 3～5、ヨエ 3 : 14～17、黙 16 : 17～21</p>